

なし「おりひめ」の栽培特性の把握と苗木育成技術の実証

要約

なし「おりひめ」苗木の主枝候補枝先端・新梢基部にジベレリンペーストを処理することにより、新梢伸長が促進され、樹幹拡大が促進された。高接ぎ樹の果実は満開後 110 日で収穫が可能であった。果実品質は良好であるが、無袋栽培では外観品質が劣るため有袋栽培の検討が必要である。

○ 展示のねらい

果育成なし新品種「おりひめ」は 8 月上旬に収穫できる極早生品種で平成 25 年 6 月に登録出願され、平成 26 年度に苗木の本格導入が始まった。そこで、おりひめ苗木に対するジベレリンペースト処理による苗木育成技術及び、高接ぎ樹における果実品質について調査し、「おりひめ」の現地適応性と商品性を実証する。

○ 主な成果

表 1 新梢長の推移 (cm)

処理区		第 1 回処理時 (満開後 20 日)	第 2 回処理時 (満開後 60 日)	第 3 回処理時 (満開後 80 日)	落葉時
供試区	1 回処理	7.7	37.1	59.8	60.0
	2 回処理	5.4	33.4	77.5	78.0
	3 回処理	5.9	40.2	81.2	82.5
対照区	無処理	8.5	19.9	29.7	29.9

ジベレリンペースト処理区では処理回数に係わらず落葉時の新梢長が 60cm 以上となり、無処理の 29.9cm に比べて 2 倍以上の旺盛な伸長を示し、主枝候補枝として使用できるまでの長さが確保された。3 回処理 ≥ 2 回処理 > 1 回処理 > 無処理の順で伸長量が大きく、1 年生苗木の新梢伸長促進を目的にジベレリンペーストを満開後 20 日及び満開後 60 日に塗布することが有効であると考えられた。

表 2 果実袋の種類の違いと果実品質

	袋の種類	果重 g	果色 C.C.		外観品質	糖度 Brix%	食味
			ていあ部	赤道部			
有袋	青色袋	361	4.3	4.5	良	12.1	良(果肉軟)
	橙色袋	296	3.9	4.7	良	11.6	やや良
	白色袋	321	3.8	4.7	良	12.6	良(果肉軟)
無袋		314	2.5	2.5	やや不良	12.0	やや良

高接ぎ樹の果実品質は、無袋果実は果面のサビ状斑、葉斑、果点間コルク状斑が発生し外観品質が劣ったのに対し、有袋果実はサビ状斑等の果面障害が発生しなかった。有袋果実は青色袋で果重が大きく、橙色袋で糖度が低い傾向であった。ていあ部の果色は有袋果実では 4.0 前後と無袋の 2.5 に比べ 1.5 程度進んでいた。

○ 今後の方向性

高接ぎ樹の果実品質だけでは評価しにくい項目もあるため、苗木定植樹の早期樹冠拡大を図り、特性調査を継続する。果実の外観品質確保のためには有袋栽培が有効であったが、果実の成熟が進むことが示唆されたことから、果実袋の種類の違いが品質に及ぼす影響を確認する。

管内各なし産地協議会産地計画において、長期集出荷体制整備のひとつとして品種構成に位置付けて推進を図るとともに、出荷、販売方法について継続検討する。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：那須烏山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315